

# 確かな目と技術で 内外の風光を活写

## 写真展

第40回医家写真展は10月13日〜17日まで、新会場のJCI Iフォトサロンクラブで開かれ22人44点が飾られました。作品評は新井隆彦先生です。

## 22人から44点 初の無審査

今回は審査を省き、出品者が各2点ずつ提出、フジフィルムの調布ギャラリーに委嘱して制作、都心の会場へまとめて運びました。閉会后、事務局のある小平市のシラヤアートのスペースに引き上げ、春の医学会総会協賛出品ものを保管、それ以外はお返ししました。

### 寸評 新井隆彦

ここ数年の写真展では会場探しが最大の問題でした。今回は竹腰先生が頑張つて都内を駆け巡り、期待以上の会場を探し当てました。建物全てが写真関連の会社、ギャラリーなどが入っていて地下鉄半蔵門線の駅から近く理想的な会場で

す。既に来期の予約も済んでいるのと、ご努力に感謝致します。

さて例の批評につきまして、私なりに書いてみました。作品の撮影場所、時間なども書こうと思いましたが、むしろ私が見たまま感じたままの方が良いと考え、写真を主に話を進めました。すべてが私の偏見と独断によるものですので失礼の段はご容ください。

(文中 敬称略。作品紹介は編集の都合により1人1点としました。全作品はホームページにあります)

### 石井光子

◎甲斐駒ヶ岳を望むⅡ春真つ盛りの風景です。青空に駒ヶ岳が残雪を抱いて聳え麓の村には桜が満開で、茅葺きの農家がひっそりとただずんでいます。良い季節、良い時間を選んだ結果の作品です。

◎山中湖の早朝Ⅱ湖面全体に朝靄が広がっています。小舟が出て釣り人が二人、竿を入れています。深呼吸すると肺の中



懇親会の記念撮影(石井先生は所用で帰られたあと……気付くのが遅れました)



「山中湖の早朝」 石井 光子



「二本の幹」 岩瀬 光



「トルコ軍楽隊の入場行進」 大武 秋笙

まで洗われる様な清潔清純の情景です。

岩瀬 光

プロ同様に活躍されている方です。会場に入った途端、思わず息を呑みました。画面全般が活き活きと輝いているのです。ポジからの伸ばしですが、流石フィルムの特性をしっかりと掴んでの撮影です。

◎釣り人と橋Ⅱ中国での作品です。形

の良い老木の間から広い湖面が見えます。よくよく見ますと左岸に釣り人が一人竿を垂れています。やはり日本の湖とどこか違う風景です。

◎二本の幹Ⅱ画面一杯が紅葉の赤で占められています。そこにやや太めの幹が2本画面をpushさえています。力強い構図です、紅葉の赤と黒い幹が印象的です。全紙の印刷上がりに思わず見とれてしまいました。

大武 秋笙

相変わらず外国の

鮮やかな作品です。

◎トルコ軍楽隊の

入場行進Ⅱ広い林の中を制服に着飾った軍楽隊の一行がやって来ます。力強い行進曲が響いてくるような気がします。

◎トルコ軍楽隊の

演奏Ⅱトプカプ宮殿

での撮影ですが、中央に指揮者がデーンと立つて指揮を執っています。荘厳な風景です。気が付くと旅行者、見物人は一人もいません。もしかすると大武秋笙先生の歓迎セレモニーでしょうか？

大武 省三

会津から芸術を発信されている大武省三先生です。兄の大武秋笙さんの海外写真と競うように国内の花の撮影が主です。



↑「雨上がりの一輪」 大武 省三



↑「コブシの咲く頃」 大森 佐一郎



「木組みの家」 木村 典子

◎雨上がりの薔薇⇨今回も見事な赤い薔薇一輪と可憐な花が並んでいる「仲よし」の2点を出されました。好き好きがあるでしょうが私は赤の薔薇を取りあげました。アップで画面一杯に正攻法通りに計算されて撮影されております。先生の花を愛する人柄が溢れています。

### 大森 佐一郎

◎コブシの咲く頃⇨珍しくモノクロでの

「コブシの咲く頃」  
大森 佐一郎  
↑

醸品です。見上げた青空に純白のコブシの花が強烈な印象を与えます。縦位置で

下方に作業中のトラクターが止まっています。農家の暮らしも取り入れた季節感溢れる作品です。

◎根雪の来る頃⇨北海道、当別の街角です。暗い空で既に雪は充分積もっています。人も車も注意深く通らなければなりません。上方から狙いました。これから寒いそして陰気な季節が始まります。

この一見平凡な風景をものにした作者に敬意を表します。

写体です。まず木が重なっている所を正面でなく重なり目の角の方向から狙っていますので構図的に無理な角度です。しかも更にも上の階がありますがこれも正方形にならないので下の階とのバランスが難しい作品です。難しい連続をうまく纏めて写真にした腕前は大したものですよ。

◎ハーメルンの笛吹き男⇨祭りの大混雑している町の通りです。人びとは思い思いの服装で急いで通り過ぎます。先頭

木村 典子

◎木組みの家⇨釘など使わない木組みの建物です。段々に木材を重ねて、1つの建造物を仕上げました。造った大工さんの苦勞は大変だったと思います。が、撮影者にとつて非常に難しい被

に祭りの着飾った男が夢中で笛を吹きながら歩いています。グリム童話の一齣です。今にも笛の音が聞こえてくる様です。

### 斉藤 三朗

◎二つの顔の丘Ⅰ―これもスケールの大きな作品です。次の作品が真紅の画面ですがこちらはピロードたなびくネモフィア群落とありますので場所、季節は判んでいます。全体に暗い寒々した様に感



↑ 「二つの顔の丘」Ⅱ 斉藤 三朗

じられます。

◎二つの顔の丘Ⅱ―ユキアの群落と注がついています。私は知識不足で分かりませんが、写真で見ると特異の植物で大きな真紅の団子状の塊を作り群生しています。山上の人たちと比較しても、如何に大きな群生か分かんと思えます。私にはつきり外国の植物と考えていました。が今日の新聞に写真が出ていて、何と茨城県のひたち海浜公園で真つ盛りとのこと。紅葉する草と言う題でした。笹草、とんぶりと聞いて納得しました。

### 佐々木 正

◎日本の花嫁Ⅱ明るくて可愛い花嫁です。写真から見る  
と撮影者



↑ 「日本の花嫁」  
佐々木 正

とは顔なじみのようです。最近はこのような定型的に美しい日本の花嫁姿をみる  
ことが少なくなりました。残念なことで  
す。

◎千の滝に佇むⅡ広い山中に多くの滝が流れ落ちています。中国の景色とは違いますが北海道でもなく九州でもないが  
と悩んでいましたらご本人からクロアチアであると教わりました。景勝地として  
最近急に有名になったクロアチアは 川  
や滝が多く撮影場所の天国です。

### 白 矢 勝 一

◎シャンソンに誘われてⅡ森の中し  
やれた建物の中からシャンソンが聞こえ  
て来ます。夜に紛れて着飾った女性がシ  
ヤンソンに誘われる様にやって来まし  
た、情緒のある写真です。ただ残念なこ  
とに小さい原板からの大伸ばしですので  
粒子が荒れてしまいました。それでも夢  
は残りました。

◎隠れタバコⅡ近頃は世の中すべて禁



↑「隠れ煙草」  
白矢 勝一

煙の時代になりました。喫茶店でもバーでも全面禁煙です。愛煙家はさぞ辛いことでしょう。一人の紳士がとうとう堪らず物陰でタバコに手を出しました。

白 矢 泰 三

◎お見合い写真Ⅱどうも私にはこの題が理解できませんが、写真そのものは見事な作品で白い水鳥がすました顔で水中の木の根っこに羽を休めています。端正



↑「お見合い写真」 白矢 泰三

な水鳥の影が水中に映っています。正に一幅の絵です。

◎明石の月Ⅱ月夜の晩ライト

アップされた明石の橋が皓々と海上にそそり立っています。手前では緑の木が茂り草原が緩やかに揺れています。橋の騒音もここまでは届かないようです。

白 矢 智 靖

◎魚いるかⅡ子供が3人浅瀬に入って海面をみつめています。釣り竿も網もありません、どうも魚はいないようです。それともイルカと掛けたしやれでしょう



「魚いるか」 白矢 智靖

し何処にも見えない「飛び込み禁止」の標識が気になります。

白 矢 輝 靖

◎街角で一人Ⅱフランスの田舎の街角です。古い石造りの建物が並んでいます。

たまたま一人の女性が角を曲がり画面から消えようとしています。静かな街で、馬車でもやって来る様な景色です。

◎甘い蜜Ⅱ草原で花盛りです。どこに

か。

◎飛び込

み禁止 岸

壁から若者

が海に飛び

込んだとこ

ろです。と

ても良いタ

イミングで

す。写真と

しては満点

です。しか

いるのかと探しましたが1羽の蝶々が花に止まり蜜を吸っていました。のどかな草原の春でした。

出来たかと思えます。

◎盛夏に咲くⅡ真紅の花が画面一杯に

私は数百メートルしか歩けず、まして

高橋 俊一



「甘い蜜」 白矢 輝晴



「盛夏に咲く」 関口 直男



「暁の槍ヶ岳」 高橋 俊一

山に登るなど  
考えても見ま  
せんで、山  
岳写真は今  
批評できませ  
ん。両者の作  
品とも頑張っ  
て撮りました  
ねと言っただ  
けで本当はこの  
斜面の陰影が  
欲しいところ

関口 直男

写っています。面白い構図です。ただピ

んトが少し甘い様な気がします。もう少し

絞ったら良かったと思います。花の真  
ん中の黄色の芯はしっかりと出ているのに

赤の花びらは一寸甘いようです。もう一

絞るか2絞りすれば良いと思います。あ

るいはソフトでコントラストを少し強く

すればよいでしょう。

◎黎明の剣ヶ岳Ⅱ雪の山肌は本当に素晴

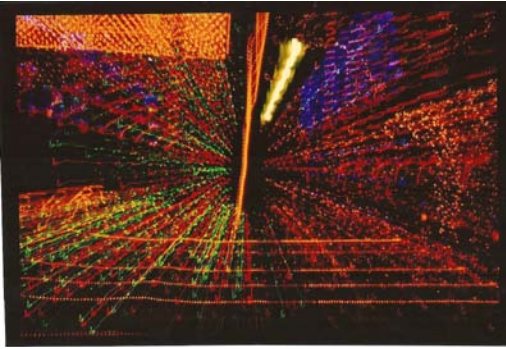
らしいと思います。本誌の表紙になりま

した。

◎立夏の夕日Ⅱ良いタイミングで撮影  
しました。夕日の色、遠方の空、全てう  
まく撮影しました。ただ時間(分、秒)  
に追われ、足場を確認する間もなく急い  
でシャッターを切ったと思いますが、も  
う数メートル左右に移動すれば手前のテ  
レビアンテナやクレーンを避けることが

鷹橋 靖幸

◎雨上がり⇒面白い被写体です。雨上がりのしっとりとした感じがよく出ています。ただ余りにも素晴らしい作品ですので一言追加しますと、左の葉が大きすぎるので左下をもう少しトリムすれば、さらにより作品になると思います。



「光の芸術」 鷹橋 靖幸

◎光の芸術⇒奇麗な電飾です。真下から狙ったのが良かったと思います。一同この撮影をした場面は何処でしょうかと



「記念写真」 竹腰 昌明

言う質問が出ていました。写真芸術ですから何処でも良いとは思いますがイベントの夜、祭りの会場などなど、皆が感心しながら話しておりました。

竹腰 昌明

◎タオルミーナの漁船⇒イタリアでの撮影とのことですが一言、美しく塗った漁船で地味な日本の舟とは大違いと思いました。よい光線を見つけられました。



「秋の棚田」 逸見 和雄

水面に美しい舟の影が揺らいでいます（本誌夏季号の表紙でした）。

◎記念撮影⇒中国の麗江で子供を乗せたヤクの写真を撮っている所を先生が撮られました。寒い高所なのでフサフサした毛皮が気に入った様ですが、肉は硬く味付けの辛さに私は参りました。中国語ではこの辛さを麻（マー）と言います。

逸見 和雄

◎初夏の棚田⇒山間の棚田の初夏です。画面一杯に朝靄がかかり、色彩は余りなく僅かに田圃の水面が霧の中に見えます。涼しさを感じる写真です。

◎秋の棚田⇒一転して豊かな秋、錦秋の秋です。同

じ谷間の棚田でも季節により、これ程までに雰囲気が変わるのかと感じました。

### 本村 美雄

◎鐘を鳴らそうⅡ撮影会で能登に行ったときの作品です。多くの仲間は何回も来たことのある軍艦島では写欲も湧かずカメラも出しませんでした。その中で本村先生は海岸に造られた記念の鐘に挑戦しました。大きい子、小さい子が



「鐘を鳴らそう」 本村 美雄

仲良く鐘を鳴らしていました。傑作です！ 頑張った甲斐がありました。

◎美白の干潟Ⅱ海岸は、ちょうど引き潮で美しい干潟が見えています。足下は透明な海水が見え干潟は潮の流れにより蛇行しています。遠くの水平線はコバルトブルーに染まっています。この美しい風景の中に親子3人が潮の引くのを見つめています。



三上 忠英  
◎田んぼアート  
弁慶と牛若丸

「弁慶と牛若丸」

三上 忠英

お馴染みの風景です。今年、牛若丸と弁慶の絵柄です。奇麗に田植えして何ヶ

月も掛けて計算通り面倒を見て今美りの秋に姿を現しました。弁慶は大長刀を振り上げ牛若丸は道路の反対側に飛んでいます。

特に今年の絵柄は奇麗に出来上がりしました。五条の大橋の文字さえきちんと読めます。勿論絵柄を制作された人びとの努力の結晶ですがこれを撮影された三上先生の根気と撮影の技術に感心致しました。

◎踊り子Ⅱ東北のお祭りです。可愛らしい男の子が踊りの衣装に身を正し誇らしげに一人前に踊っています。

### 村上 泰

花の写真に全勢力を注ぎ込んでいる先生です。残念ながら説明する私が花の名前など、全く分かりませんので申し訳ありません。

◎しゃこばサボテンⅡ紫紅の花がまるで踊っているかのように画面の中を面白く展開しています。今にも写真の枠を超



えて、見る人に何か訴える様な精気さえ感じられます。

◎真夏の木漏れ日Ⅱ緑の葉に囲まれて薄い上品な紫の大輪が作品の大部分を占めています。題から察しますと辺りは一画面緑の木影でこの花だけ、まろやかな光が当たっていたのでしよう。花に熱中しておられる先生であるからこそ、この花の気持ちを感じてシャッターを切ったのかと思います。



「じゃこサボテン」 村上 泰



「二匹の大獅子」 矢崎 定造



「メコンの行水」 新井 隆彦

矢崎 定造

祭り専門の写真の大家です。

◎祭りのひと時Ⅱ踊りが今ちようど一休みで全員が地面に腰を下ろして休憩中です。踊り手の前には踊りに使う細長の提灯がローソクに火が入るのを待っています。

◎二匹の大獅子Ⅱこれぞお祭りの矢崎先生の会心の作品です。道一杯、二匹の大獅子が飛び上がる寸前です。獅子は衣

装を一杯に広げ見事な頭を地面に付け偉容を見せております、獅子の前には見物

人も撮影者もいません。何時も感心されるのですが全国の祭りに飛び込んで、まるで先生のお出でになるのを待っていた様な一番良い席で撮影されるのは先生の熱意に圧倒されていることでしょうか。

新井 隆彦

◎メコンの崖上Ⅱメコンリバークルー

ズ7日間。河は10〜30メートル位低く船は殆ど岸壁に着きません。従ってお寺など観光するには崖の下に船を着け先ず船員がロープを持って崖を上がり縛り

付けてから我々船客の下船が始まり  
ます。

その間船の窓から見ていると崖の上  
は道があるらしく牛が数頭歩いていま  
した。自転車が見えましたが、人はおり  
ません。のんびりした風景です。これか  
ら乗客は木の根、草に掴まりながら崖を登  
らねばなりません。

◎メコンの行水Ⅱ草に掴まりロープに  
頼りやと崖の上にと私たちがのグ



懇親会風景

ループの為に色々な乗物が用意してあり

ました。ある時は小型バス、三輪車、牛  
車、今回はオートバイタクシーが待って  
いました。これは普通のオートバイの後  
ろの荷台に客がまたがると村の青年が更  
に荷台に乗り客が落ちない様にして山を  
登りました。こうして山に到着すると山  
上にはお寺があり、部落では人びとがの  
んびりと暮らし子供を水浴させておりま

## 高度な技術評の交換も 懇親会

懇親会は 11月16日(土)夜、近くの  
レストランで開きました。美術展と同様  
に出品者全員の作品計 44 点を、パソコン  
からスクリーンに投影、出席者それぞれ  
が自作について説明しました。同時にお  
仲間からハイレベルな技術論や撮影時の  
苦労話まで多岐にわたって発言があり、  
和やかに会食しながら楽しい時を過こし



ました。

ただスクリーンが白板上  
でしたので、今ひとつ画  
像が鮮明でなかったのは  
残念でした。



来年も J C I I で開く  
ことが決まっています。  
ぜひ出品と同時に、懇親  
会にもご参加をお待ちし  
ております。